

研究機関：広島大学

研究課題名	急性肝障害患者の成因および予後の調査
研究責任者名	広島大学大学院医系科学研究科消化器・代謝内科学 教授 茶山 一彰
研究期間	2021年3月22日(倫理委員会承認後)～2025年3月31日
対象者	2013年1月から2020年12月までに、広島大学病院で急性肝障害と診断され精査または治療を受けた成人の患者さんを対象とします。

意義・目的

急性肝障害とは、ウイルス性、薬剤性、アルコールなど何らかの原因により肝組織に炎症が生じ、肝細胞が破壊されることで起こり、肝不全として致命的な経過をとる症例も存在することが報告されています。急性肝不全は多臓器不全に対する治療を含めた多角的な集中治療が必要となり、短期予後が極めて不良な症候群ですが、原因不明の症例が存在することや確立した内科的治療についてはまだ未解明な部分も多く、根治治療としては肝移植が唯一の選択肢であるのが現状です。早期に認識し、介入を行うことで救命率が改善することが報告されており、当院における急性肝障害の頻度、病態、発症リスクや治療経過を検討するため、この研究を計画しました。

方法

本研究は、全て診療録（カルテ）情報を転記して行います。カルテから転記する内容は性別、年齢、身長、体重、病名、自覚症状の有無、家族歴、生活歴、既往歴、内服薬、血液検査、画像検査（CT、MRI、内視鏡検査）、治療として行った処置や薬剤、観察期間、転帰です（個人が特定出来る情報は転記しません）。

共同研究機関

なし

試料・情報の管理責任者

広島大学大学院医系科学研究科消化器・代謝内科学 教授 茶山 一彰

個人情報の保護について

調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。

研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。

問合せ・苦情等の窓口

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

Te l : 082-257-5191